

## 山田義一先生へ感謝！！



新里眼科医院 新里 越郎

昨日到着した沖縄県眼科医会報2007年8月号の巻頭言に山田会長の辞任の意向が掲載されていた（11月2日着、会報は年に二度発行）。

平成10年4月から、20年3月までの連続して延々10年間にわたり厳しい会務運営の責任者を続けてきたことになる。まことに御苦労さんでしたという以外に言葉を見つけるのは難しい。このような長きにわたり責任の大きな仕事を続けてきた会員は日本眼科医会のなかでも極めてまれなのではないか？この貢献にたいし社団法人日本眼科医会から表彰された。

10年前のある日、彼が会長選挙にでるので推薦してほしいとの申し出に、喜んで推薦状に署名したことを明瞭に覚えている。眼科医会の総会での選挙のとき圧倒的多数で山田会長が実現した。懇親会的な集まりであった沖縄県眼科医会を近代組織として発展させるという難しい仕事を自ら引き受けたのだ！小生はとても感動した。しっかり彼を支えなくてはと！

第一の公約としてまず近代的な会則をつくり、若い多くの会員が参加できる基礎作りが必要である。つまり懇親会から組織への発展である。第二の公約は会費および会運営の経費の合理的削減である。

それまではA会員は年間5万円、B会員は3万円、C会員は1万円であった。それをA会員25,000円、B会員5,000円、C会員0円に変更したのである。

会則は本則と会則施行細則、選挙細則、会費内規、慶忌内規、県外出張に関する内規など、会の合理的な運営に必要な会則を立案し総会で承認された。これは沖縄県眼科医会の夜明けとも言うべき内容だ。山田会長は理事会の100パーセントの支援を受けて、見事にこれらの公約をはたしたのである。彼は2～3期つとめたら、後輩にひきつぐ計画であったはずだ。その時は後継者も育っているだろうとの見通しからである。しかし結果的にさまざまな事情から10年間という長きにわたり大変な責任を引き受けざるをえなかった。この事実にかんがみ現在の理事の中から新しい世代の後継者が出てくるのはまちがいないだろう。ぜひ次期会長と理事会にも頑張ってもらいたい。

最後に個人的な提案だが沖縄県眼科医会は次期執行部を通じて恩人！ともいうべき山田義一先生に感謝状を送ってその業績をたたえて欲しい。  
元眼科医会副会長 平成19年11月6日

